

○現状分析 (学力調査等の結果を踏まえた内容別・観点別の分析表)

| 2年 | 平均正答率 | | 分析 |
|--------|-------|------|--|
| | 本校 | 都 | |
| 国語 | 71.6 | 71.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」「書く」「知識・理解」について都の平均値を下回っている。「話す・聞く」については、相手の話を聞く際、ポイントを押さえて正しく聞き取ることを苦手とする生徒が多いので、授業において、聞き取りテスト等を計画的に実施していく必要がある。 ・「知識・理解」と「書く」能力については、語彙量が少ないことが課題である。文脈に沿って言葉の意味を正しく捉え、それを自己の表現活動に生かすことができるよう指導を継続して行っていく必要がある。 ・「読む」については都の平均値をわずかに上回ったが、十分とは言えない。引き続き、読書指導に力を入れていく。 |
| 観点別正答率 | 関心・意欲 | --- | |
| | 話す・聞く | 73.3 | |
| | 書く | 56 | |
| | 読む | 80.5 | |
| 知識・理解 | 68.7 | 68.9 | |

| 3年 | 平均正答率 | | | 分析 |
|--------|-------|------|------|---|
| | 本校 | 都 | 全国 | |
| 国語 | 75 | 74 | 72.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・「関心・意欲」「話す・聞く」「知識・理解」について都の平均値を下回っている。特に、出題の趣旨として「自分の考えをもつ」ものについて、無解答率が高く、正答率が低い傾向にあることが分かった。授業において、自分の考えを明確にもち、文章に表れているものの見方や考え方と比べたり、他者との考えを比べたりする活動を積極的に取り入れる。 ・各問題ごとに正答率を見比べた際、話し合いの流れを踏まえて考える問題において都の平均値から4.3%低い結果であった。互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動を増やしていく必要がある。 |
| 観点別正答率 | 関心・意欲 | 76.7 | 77.1 | |
| | 話す・聞く | 71.9 | 72.2 | |
| | 書く | 86.6 | 83 | |
| | 読む | 75.3 | 74.3 | |
| 知識・理解 | 68.8 | 69.6 | 67.7 | |

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

| | 指導方法の課題分析 | 具体的な授業改善策 | 補充・発展的な学習指導計画 |
|----|--|--|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中における言葉の意味を適切に理解する能力を高めるとともに、基本的な語彙量を増やす必要がある。 ・他者との交流を通して、自己の考えや意見を広げたり深めたりし、さらに再発信できる言語能力を身に付けさせる必要がある。 ・読書の習慣は概ね身に付いているので、幅広い分野の本に触れることで、豊かな感性を育む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業の中で、前後の文章から言葉の意味を考えさせる学習を計画的に取り入れる。語彙量を増やすために、3年間を見通して読書指導を系統的に行っていく。 ・主に文学的文章の読解において、小グループでの話し合い活動を行う。他者との交流を通して自己の考え方の変容が分かるように、ワークシート等の形式を工夫する。 ・全校体制で課題図書を取り組みを実施し、読書の授業を学期に1回程度取り入れていく。 | <p>〈補充的な学習指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中や定期考査前に学習教室を実施し、漢字の読み書き等を中心として、基礎学力の向上を図る。 ・家庭学習ノート、毎日の宿題、予習ノート等を課し、家庭学習の習慣の確実な定着を図る。 <p>〈発展的な学習指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見発表会や朗読劇等の取り組みを通して、自分の考えや意見を適切に表現できる言語能力を高めていく。 |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> ・長文読解に対して、苦手意識をもっている生徒が多い。文学的文章、説明的文章の「読解のスキル」を身に付けさせる必要がある。 ・語彙量を増やす必要がある。 ・自分の意見を論理立てて述べる言語能力を身に付けさせる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章では表現に即して登場人物の心情の推移や情景描写が果たしている役割を、説明的文章では接続語や指示語の働き、段落構成等に注目させて読み取る手法を授業の中で意識して身に付けさせる。 ・課題図書の取組等、読書指導を系統的に行っていく。長文読解の中で、前後の文章から語句の意味を類推する学習を繰り返す。 ・スピーチや小グループでの話し合い活動を、授業の中で多く取り入れるようにする。 | <p>〈補充的な学習指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週漢字テストを行い、8割以下だった生徒に対しては、補充学習を行う。併せて、長期休業中や定期考査前の学習教室を実施し、個別支援を行う。 <p>〈発展的な学習指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の入試問題等の長文読解問題を教材として、長文を速く、正確に読み取る学習を計画的に取り入れていく。 |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」の分野において、聞き取る力を伸ばす必要がある。 ・読書の習慣は身に付いているが、幅広い分野の本を読み、自分の考えを明確にもち自己の思考力や表現力を伸ばそうとする姿勢を身に付ける必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」の学習において、相手の考えや意図を正確に聞き取ることができるよう、聞き取りメモの指導等を計画的に行う。 ・課題図書の取り組み等において、幅広いジャンルの本に親しむように指導していく。 ・小グループでの話し合い活動では、まず、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加させる。また、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかを考えさせ、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導する。 | <p>〈補充的な学習計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」能力を高めるために、ブックトークや討論等の言語活動を適宜取り入れていく。 ・課題図書をもとに読書の授業を計画的・系統的に実施する。その際、生徒の発表等を意識的に取り入れていく。 <p>〈発展的な学習指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補充教室等においては、難解な長文読解問題に取り組みせ、読解力の向上を図る。 |